【授業科目】老年看護援助論Ⅱ（健康障害）　Gerontological Nursing Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
三好 陽子、藤井 夕香、岡村 勇飛	３年次 前　期	必　修	1	３０	演　習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方）及び 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ 方法	授業概要／高齢者特有の健康障害と主な疾患が高齢者の生活にどのように影響を与えているのかを身体、精神、心理・社会面から幅広く考えられるように学習を進める。また、高齢者の周囲の環境にも目を向け、介護負担など家族を含めた対応が重要であることを理解し、高齢者にとってその人らしい生活とは何か、老年看護の実践について考える機会を提供する。ここでの学びを老年看護学実習につなげることを意識し講義を進める。形式は講義を主とするが、技術演習や看護過程の事例演習を取りいれ、実際の看護をイメージすることにより、老年看護の実践能力を高めることを目指す。講義時はプリントを配布し、教科書と共に使用する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。
実務経験に関する授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な老年看護学の知識について、老年看護学の資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①高齢者の健康障害の特徴と看護の実際がわかる。 ②高齢者の機能障害が日常生活に及ぼす影響と生活機能の維持・向上への支援方法がわかる。 ③老年看護技術演習を通して、老年期の特徴に応じた看護援助の実際がわかる。 ④老年期における看護過程の特徴と実際がわかる。 ⑤高齢者の健康課題をアセスメントし、看護計画が立案できる。
時間外学習に必要な内容・時間	第 1～8 回事前・事後学習：講義前は教科書の該当部分を事前に読み、疑問点や老年看護を実践していく上でどのような点に注意すべきか自分の考えを整理しておく。疑問点は自ら調べたうえで 教員に質問する。講義後は配布資料や教科書の該当部分を振り返って学びを整理し、事後学習課題を次回の講義までに実施し、発表できるように準備しておく（各６０分）。 第 10、11 回事前・事後学習：技術演習前は各回での学びを復習し、演習時にどのような点に注意する必要があるかを確認して演習に臨む。また、演習後は体験を通して感じたこと、今後の看護にどのように活用するかについてレポートを作成する（各６０分）。 第 9、12、13、14、15 回事前・事後学習：看護過程演習前は事前に提示された事例をよく読み、分からない点は調べたうえで演習に臨む。講義で学んだことを振り返りながら各自で看護過程を展開し、その際、疑問点が生じた際には、次回までに整理し、調べておく(各６０分)。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第１回　：高齢者の医療的援助と看護 （入院生活、検査、薬物療法、手術、退院）	三好
第２回　：高齢者の健康障害と看護① （パーキンソン病、脳血管疾患）	三好
第３回　：高齢者の健康障害と看護② （高次脳機能障害、脳病変によるADL障害）	三好
第４回　：高齢者の健康障害と看護③ （骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折）	三好
第５回　：高齢者の健康障害と看護④ （感染症、肺炎、慢性閉塞性肺疾患）	藤井
第６回　：高齢者の健康障害と看護⑤ （がん）	藤井
第７回　：高齢者の健康障害と看護⑥ （糖尿病、白内障）	藤井
第８回　：老年期における看護過程の特徴、高齢者総合的機能評価	三好
第９回　：看護過程演習オリエンテーション・事例紹介 看護過程演習①（情報分類・アセスメント）	藤井
第１０回　：看護技術演習オリエンテーション 看護技術演習①（嚥下体験：液体ととろみの説明）	岡村
第１１回　：看護技術演習②（疑似体験 － 杖歩行と介助）	三好・岡村
第１２回　：看護過程演習②（アセスメント・関連図） ※第１１・１２回は学生を２グループに分け、両方の演習を体験できるよう設定する。	藤井
第１３回　：看護過程演習③（アセスメント・統合）	三好・藤井・岡村
第１４回　：看護過程演習④（課題抽出・看護計画立案、演習記録提出）	三好・藤井・岡村
第１５回　：看護過程演習⑤ 看護過程演習の振り返り・まとめ（認知症高齢者への対応）	三好・藤井・岡村

評価方法・評価基準	定期試験 60%、看護技術演習 20%、看護過程演習 20%		
教科書	堀内ふき・大渕律子『ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』MCメディカ出版※２年次後学期の「老年看護援助論Ⅰ」で購入した教科書を引き続き使用します	参考書等	講義の中で適宜紹介します
学生への助言等	講義・演習で理解できなかったこと、疑問に思ったことなど、積極的に質問してください。講義時に質問できなかった場合は、必ずリアクションペーパーに書いて下さい。次の講義時にお答えします。 講義中の携帯電話の使用・私語は禁止します。学習環境を整えましょう。		